宮城県における新型コロナウイルス感染症の現況

宮崎真理子

令和 3 年 12 月 12 日/宮城県「第 49 回宮城県腎不全研究会」

2019 年 12 月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は我が国でも急激に拡大した．ウイルスの遺伝子解析，ワクチン開発，治療薬開発に世界中の研究者や企業が精力を注いだが，2021 年 11 月までに大きく 5 回の感染拡大が見られ，感染の終息は未だ見えない状況にある．

日本の感染患者数は，2011 年 11 月末には 172 万 8,000 人で，1 万 8,370 人が死亡した．年代別致死率は 60 代で 1.6%，70 代で 5.4%，80 代以上で 14.4% との報告があり，高齢者での致死率が高い．

透析患者では，2021 年 12 月 9 日現在，2,671 人の透析患者の感染，422 名の死亡が確認されており，致死率は 15.8% である．

宮城県の地域医療圏は仙台市と周辺市町を含む仙台医療圏，大崎・栗原医療圏，石巻・登米・気仙沼医療圏，仙南医療圏の四つで構成され，COVID-19 の医療調整はこの医療圏，保健所の所轄地域ごとに進められる．2020 年 4 月，厚生労働省からの通達をうけ，宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部（調整本部）が発足した．調整本部では DMAT 医師が本部員となり，県内の入院病床の使用状況，重傷者数を一括管理している．加えて，感染症の専門家，透析医療，小児医療，精神医療，産科医療など，特別の医療資源や患者対応を要する領域の専門家らが，アドバイザリーボードを作って活動している．

宮城県の人口は 230 万人で，2019 年末現在で 6,000 人の透析患者がいるが，東日本大震災や令和元年台風 19 号などを克服した横断的な情報共有や連携の基盤を持っていた．県全体の COVID-19 の累積感染者数は 2021 年 12 月 11 日現在 16,303 人であるが，透析に対応可能な病床は限られ，仙台市内 3 病院，市外で当初は対応していた．2020 年 10 月に透析患者の 1 例目が発生してから 2021 年 11 月までに，透析患者（透析導入直前で感染し，維持透析を開始した例を含む）の感染が 25 名にとどまったことで，ここまでは入院して透析管理をすることが可能であった．透析施設クラスターの発生もなかった．しかし，3 名が死亡し，少なくとも 3 名が重い肺の後遺症を残した．

特に，2021 年 3 月 18 日，宮城県・仙台市に緊急事態宣言が発令された時期は病床が逼迫し，新たに透析に対応する病院，装置を増やす病院で収容人数を増やした他，かかりつけ透析施設や後方支援病院での早期受け入れなどそれぞれが役割を果たして連携した．

2021 年 6 月以降，ワクチンが透析患者にも接種されたが，8 月にデルタ株による第 5 波に見舞われた．ブレイクスルー感染の症状は比較的軽症であったが病床はひっ迫した．

COVID-19 により，社会が公衆衛生上の脅威に直面し，医療継続に危機が訪れた．この危機的な

東北大学大学院医学系研究科腎・膠原病・内分泌内科学

状況では，予見的かつ積極的に（正確な）情報を伝達することが重要と WHO は提唱している．ただし，このような取り組みはもともと上述のような信頼や連携の基盤があってこそ効果が大きい．また，対面での交流が難しい場合はオンラインでの情報共有や交流が有用である．

そこで，調整本部発足前の 2020 年 3 月，宮城県内の透析医療関係者，宮城県・仙台市の担当部署などによるメーリングリストを構築した．政府や県・市，関係学会からの発表資料や感染対策を紹介することとし，URL を記載して発信源に到達できる情報として提供した．特に，宮城県が公開しているコロナ対策の各種会議の記録，感染患者の入院調整のフローを周知し，専門家の分析に基づく注意喚起，疑い患者，濃厚接触者への対応などを随時更新して，透析施設の医師やスタッフの不安を緩和し，地域の透析医療の戦略的連携が確たるものになることを目指した．また，施設からの質問や取り組み事例の紹介なども行った．

以上が第 5 波までの宮城県内の COVID-19 対応である（図 1）．今後，第 6 波以降の感染拡大でも適宜修正して続けていく方針である．

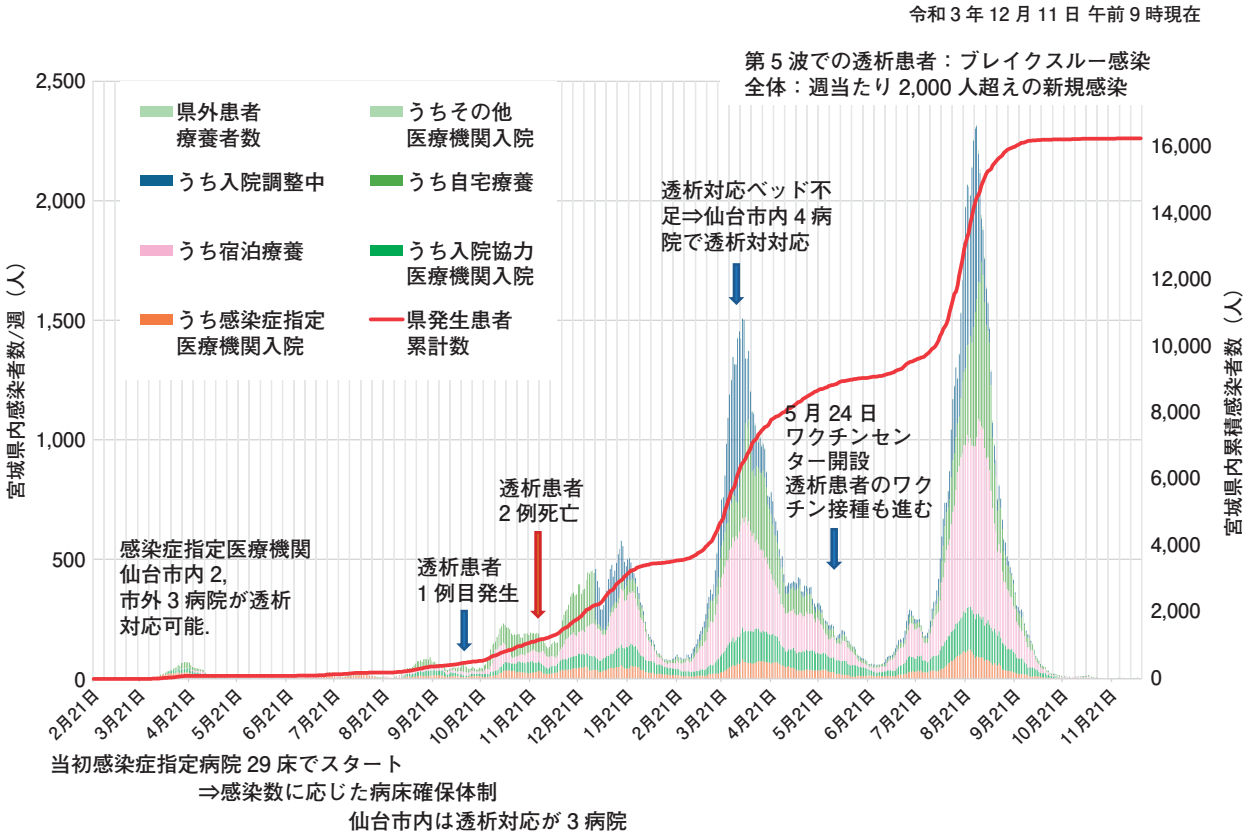

図 1　新型コロナウイルス罹患者数の推移

2020 年 2 月から 2021 年 12 月までの宮城県の新型コロナウイルス罹患者の推移と，宮城県の透析患者対応病院，および感染患者の発生状況．
（https://www.pref.miyagi.jp/site/covid-19/02.html　2021/12/11 アクセス　を一部改変）